

第7回海外酪農視察研修報告

当社は、平成23年3月28日～3月7日の8日間の日程で、第7回海外酪農視察研修を実施した。視察先は、酪農大国のオーストラリア（豪州）。TPP（環太平洋連携協定）やFTA（自由貿易協定）など国際化の波が押し寄せる中、北海道酪農にとって最も気になる国の一つだ。参加者は酪農生産者と農協関係者計6人。視察の概要を報告する。



豪州の広大な放牧地

参加者氏名（敬称略）	
〈リーダー〉	山口良一（豊頃町農協専務）
〈サブリーダー〉	松井睦路（釧路丹頂農協酪農振興会視察支部理事）
	千田修平（上士幌町酪農振興会役員）
	佐々木康博（帯広町農協青年部畜産研究部副部長）
	三澤勝（おむむ農協青年部長）
	宗像宏史（中頓別町農協監事）
【当社随員】	新田修（十勝主管工場酪農担当部長）
	加藤彰通（オホーツク北見工場酪農担当）



コロイト近郊（ドゥワイヤー農場）にて

研修行程			
月日曜	時間	滞在地	内容
2/28 (月)		東京	結団式 【東京泊】
3/1 (火)	午前	東京	よつ葉乳業株式会社 「豪州の酪農・乳業情勢について」講演
	午後	東京 成田	「TPP・日豪EPAの現状と課題について」講演 <空路にて豪州へ> 【機中泊】
3/2 (水)	午前	シドニー	
	午後	メルボルン	マレー・ゴールバン社総合物流センター（乳製品倉庫） 【メルボルン泊】
3/3 (水)	午前	コロイト	マレー・ゴールバン社コロイト工場 「マレー・ゴールバン社の乳価について」研修 「マレー・ゴールバン社のミルクケアについて」研修
	午後	コロイト近郊 ウオーナンプール	酪農場視察（3戸） ハインズ共同経営会社（法人経営） ドゥワイヤー農場（乳質優秀農場） ウオーレイ・パストラル（家族経営） マレー・ゴールバン社コロイト工場スタッフとの交流会 【ウオーナンプール泊】
3/4 (金)	午前 午後	コロイト メルボルン	マレー・ゴールバン社コロイト工場 デーリー・オーストラリア 【メルボルン泊】
3/5 (土)	午前 午後	メルボルン シドニー	クイーン・ビクトリア・マーケット（市場） 泰記IGA（スーパーマーケット） 【シドニー泊】
3/6 (日)	午前	シドニー	サイモン・ジョンソン（高級食材店）
	午後	シドニー	コールズ・マイヤー（スーパーマーケット） デビッド・ジョーンズ（百貨店） <空路にて日本へ> 【機中泊】
3/7 (月)	午前	成田	帰国 <成田→羽田→空路にて北海道各地へ>



事前研修を受ける視察団一行

【東京での事前研修】
豪州視察に先立ち、東京で事前研修を行った。初めに農畜産業振興機構の野村俊夫酪農乳業部長（現・畜産振興部長）が講演し、豪州は①脱脂粉乳、バター、チーズの輸出量がいずれも世界の1割以上を占める輸出大国、②干ばつや灌漑用水による塩害、人口増加による草地の宅地化などで生乳生産は減少傾向などと説明。次に北海道農協中央会東京事務所の林亮年主幹が、TPPと日豪EPAで関税が撤廃された場合、日本の乳製品生産はそれぞれ約4500億円、約2900億円減少するとの見通しを示し「政府はすべての貿易交渉に当たり、例外措置として重要品目の関税を維持すべき」と強調した。

豪州酪農とMGC

豪州の酪農地帯はビクトリア州に集中しており、豪州全体の年間生乳生産量約940万トンのうち、約610万トン（約65%）を同州が占める。

MGCは豪州最大の乳業メーカー（酪農協）で、生乳処理量は年間約310万トン。事業内容は当社と類似しており、粉乳やバターなどの乳製品が中心。売上高は約1,800億円で、製品の約70%が輸出向けだ。MGCには30人のフィールドサービス（酪農担当）がおり、うち約4割が女性。酪農生産者に対し、乳質改善や生産性の向上、財務改善などの指導を行っている。

乳価と支払い方法

豪州の生乳取引は、酪農生産者と乳業メーカーとの個別契約。酪農生産者は各乳業が提示する乳価やサービスなどを比較し、最も条件の良い乳業を選ぶことができる。MGCの乳価と支払い方法は〈表〉の通り。MGCへ生乳を出荷する酪農生産者は同社の株主となり、乳代から数セント／1を出資する。配当金は年1回、1株当たり8～15%となっている。

MGCの乳価と支払い方法

乳価	基本乳価	シーズン始め（7月）に発表されるその年の基本となる乳価
	季節乳価	オフシーズンへの出荷に対するボーナス乳価
プレミアム乳質乳価	良質乳を出荷した生乳生産者に支払われる乳価	
品質管理奨励乳価	より高度な品質管理を奨励するために支払われる乳価	
支払い方法	従来型システム	オフシーズンに高い乳価が支払われる従来からの方法。生乳生産者の50%が選択
	季節型システム	徹底した季節分岐の酪農経営に適した方法。年間の単価変動が最も小さい。生乳生産者の20%が選択
	横ばいシステム	年間の単価変動が最も大きい。年間を通して乳量が増加した酪農経営向け。生乳生産者の30%が選択

注：基本乳価は、会社の業績に応じてステップアップが行われることがある

コロイト工場と総合物流センター

メルボルン西方のコロイトにあるMGCの乳製品工場。酪農生産者535戸から集乳し、年間約90万トンの生乳を処理する。主な製造品目は粉乳類、バター、AMF（無水バター）、バルク殺菌乳など。



コロイト工場の全景

メルボルン近郊のラバトンにある総合物流センターは、乳製品16万トン（粉乳製品10.4万トン、チルド製品2.4万トン）、LL牛乳・カスタード等小売商品3万トンを保管可能で、1日300台のトレーラーが出入りする。MGCはメルボルン港最大のユーザーで、年間2万5,000基のコンテナを出荷している。



総合物流センターの粉乳倉庫

マレー・ゴールバン社 (MGC)



MGCコロイト工場での研修風景

ミルクケア

ミルクケアとは、MGCが独自に取り組む「農場の食品安全・品質保証プログラム」のこと。2000年に研修コースを開設して以来、これまでに9,000人以上の酪農生産者が受講した。主な研修内容は①スタッフの研修、②牛の健康と牛の移動、③農薬・動物用医薬品、④飼料、⑤搾乳場の環境、⑥搾乳管理、⑦搾乳機器とミルクタンクの衛生状態と性能、⑧生乳の冷却記録の8分野。ビクトリア州では、食品安全管理当局が発行するデーリーライセンスがなければ酪農業をできないこととな

っており、ミルクケアはMGC傘下の酪農生産者がデーリーライセンスを取得する有効な方法の一つのこと。



ミルクケアのテキスト

クイン・ビクトリア・マーケット

南半球最大規模の屋外市場で、7haを超える敷地内に約1,000店が建ち並ぶ。うち生肉やハム、燻製、チーズを扱う専門店は100軒ほど。チーズの多くは豪州産で、チェダーやゴーダをはじめ、豊富な種類が陳列されている。



畜産物・乳製品販売店

泰記IGA

シドニーのチャイナタウンにあるスーパー。飲用乳はナショナルフーズ(キリンHDの100%子会社)の商品が大半で、容器は1㍓(約195円)と2㍓(約311円)が中心。LL牛乳はコーンフレークやココア飲料などの間に挟まれて売られており、相互に依存しながら売上げに貢献している様子。



牛乳乳製品売場

コールス・マイヤー

豪州2大スーパーの1つ。PB商品「スマート・バイ」シリーズを展開しており、PBの牛乳(2㍓)は、NBの約271円~423円に対し約166円と安い。低脂肪牛乳や無脂肪乳、無脂肪+カルシウム強化牛乳、鉄分・ビタミン・カルシウム強化牛乳なども展開する。「畜産の情報」(農畜産業振興機構)によると、豪州のスーパーではPBの飲用乳販売が50%のシェア(2009/10年度)を占めており、10年前から倍増した。



「スマート・バイ」シリーズ

牛乳乳製品市場調査

サイモン・ジョンソン

豪州を代表する高級食材店。専用のチーズセラーがあり、フランス、イタリア、イングランド、アメリカなど各国のこだわりチーズが量り売りされている。価格は100g当たり約580~1,100円と、他店と比べかなり高価。



サイモン・ジョンソン外観

デビッド・ジョーンズ

豪州を代表する百貨店。食品売場は充実するも、飲用乳の取扱いは少なく、容器はすべて2㍓(約344円)以下。チーズはフレッシュタイプからハードタイプまでスーパーや市場を上回る品数が陳列されている。牛乳豆腐と思われる商品も多数販売。

豪州の消費と輸出

豪州の1人当たり年間消費量は、飲用乳102㍓、チーズ13kg、ヨーグルト7kg、バター4kgで、いずれも微増傾向にある。生乳用途は、チーズが34%で最も多く、次いで飲用乳25%、脱脂粉乳・バター24%、全粉乳11%など。

2009/10年の輸出割合は45%で、10年前に比べ15ポイント低下した。生乳生産の減少と国内需要の伸びが要因。国別輸出額は日本が約370億円と最大で、次に中国約250億円、シンガポール約164億円、インドネシア約120億円、マレーシア約100億円など。



酪農生産者

ハインズ共同経営会社(法人経営)

ニュージーランドのシンジケート(同国を中心に25の酪農場を経営)が約9億円で買収した酪農場。乳牛飼養頭数は約1,300頭、年間出荷乳量は6,760kl。60ポイントのロータリーパーラーを備え、1~2人で搾乳する。ペレニアルライグラスの放牧中心で、夏期限定で搾乳牛には自牧場で生産される雑穀(キビ)を給与している。

ロータリーパーラー(60ポイント)



バルクタンク(容量42㍓)

ドゥワイヤー農場(乳質優秀農場)

2004年9月に新規就農したドゥワイヤー夫妻が経営する。搾乳牛は約260頭、年間出荷乳量は1,771kl。パラレルパーラー20頭ダブル。ライグラスの放牧中心。常に牛の健康状態を把握し、問題を発見したらすぐに改善する。生乳出荷の翌日には、MGCから携帯電話に乳質検査結果のメールが届く。夫妻は「MGCは常に酪農生産者の視点に立ってくれる会社。経営が厳しかったときMGCが無利子融資してくれた」と話す。



整頓された処理室



搾乳場へ向かう乳牛

ウォートレイ・パストラル(家族経営)



体細胞数測定装置



個体識別の工夫

経営者は2代目のアンドリュースさん。搾乳牛は約500頭で、年間出荷乳量は3,102kl。50ポイントのロータリーパーラーを備える。ライグラスとクローバーの放牧中心。早期の乳房炎治療(搾乳室内に体細胞数測定装置あり)や、臀部への個体番号表示に取り組む。臀部への表示はMGC推奨の個体識別法で、数字の型番(銅製)をドライアイスで冷却し押印する。

デーリー・オーストラリア(DA)

DAとは

酪農生産者が所有するサービス組織。国際競争力を持ち、革新的で持続性のある乳業界を育むことが企業目的。主な業務は①需給状況、消費拡大等酪農乳業に関するリサーチ・開発と乳業界の利益拡大、②乳製品の国内需要拡大、③国際取引環境の向上と輸出市場拡大の強化。豪州産生乳への課徴金(0.3豪セント/1=約24銭/1)で運営され、従業員は80名程度。



DAでの研修の様子

山口良一リーダーの話



豪州酪農におけるMGCの存在が極めて大きいことが分かりました。特にフィールドサービスによる酪農サポ

ートや、酪農生産者への無利子融資については、大切なことを改めて教えられたと思います。よつ葉乳業にはぜひ、北海道、そして日本のMGCになってもらいたいと思います。私自身は今回の視察で得たものを生かしながら、しっかりと将来につなげていきたいと考えています。よつ葉乳業を始め、添乗員、通訳、現地スタッフの皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。